

令和4年度登録要約筆記者認定試験
要約筆記技能試験—OHCロールによる要約筆記—

「エコバック」

スーパーやコンビニなどでレジ袋が有料化されてから、2年余りが経ちました。それに伴いマイバックを持参する人が増え、コンパクトに畳めるものや、簡単に広げられるものなど、さまざまなエコバックが販売されるようになりました。このエコバックは、今では買い物にはなくてはならないアイテムとなり、私自身もいつもカバンの中に入れて持ち歩いています。

2020年、環境省はプラスチックごみ問題について国民に考えてもらうことを目的とし、「みんなで減らそうレジ袋チャレンジ」というキャンペーンを実施しました。活動の効果を図るため、10代から70代の男女2100人を対象にエコバックに関する調査を行ったところ、レジ袋を1週間使わなかった人の割合は、最終的には71.9パーセントと、当初の目標としていた6割を大きく上回ったというのです。

しかし、エコバックの取り扱いには、注意が必要です。汚れが付着したまま、繰り返し使い続けると食中毒に繋がる恐れがあるというのです。目につく汚れやにおいがなくても、肉や魚の汁が漏れ出したり、野菜に残った土が付着したりと、そのまま使い続けることで食中毒菌が増殖してしまい、新たに購入した商品に菌が付着してしまうそうです。

エコバックによる食中毒を防ぐための方策として、肉や魚、野菜はポリ袋等に包む、バックはこまめに洗う、冷たい食品と温かい食品は密着しないように入れ、持ち運び時間は短時間にすることなどが推奨されています。また、可能であれば複数のバックを用意し、食品用、雑貨用等で使い分けるのもおすすめだそうです。

レジ袋が有料化されたことで、エコのためとあまり深くは考えずに利用を始めましたが、環境にやさしい生活と家族の健康を守るためにも、エコバックの衛生面を日頃から意識し、賢く利用していきたいと思います。

令和4年度登録要約筆記者認定試験
要約筆記技能試験—OHCロールによる要約筆記—

「絵本」

私には小学3年生になる娘がいます。娘は小さいころから絵本が好きで、特に双子の野ネズミが主人公の「ぐりとぐら」のお話がお気に入りです。食べることと料理をすることが大好きな野ネズミと仲間の動物たちが交流する、誰もが親しみやすいストーリーは、私も大好きで、日本のみならず、海外向けにも翻訳され、世界中の多くの人たちにも楽しまれています。

娘がこの絵本を初めて手にしたのは、幼稚園に入園する前のクリスマスのことでした。サンタさんからの贈り物を手に目を輝かせる娘の姿を、今も鮮明に覚えています。当時、まだ文字を読めなかった娘と一緒に、心温まる挿絵を見ながら「こんなに大きいカステラ食べてみたいね」などと、よく空想を楽しんでいました。また文字が読めるようになると、たどたどしいながらも私に一生懸命読んでくれ成長を感じるようになりました。そして今では、情感たっぷりに、2歳になる妹に読み聞かせてくれるまでになりました。

最近では、絵本も活字から電子書籍となり、さらに共働き世帯も増えたため、親子で絵本を楽しむ時間も以前に比べて少なくなったように思います。しかし、絵本を読み聞かせることで、様々な知識が身に付き、想像力や集中力といった感性を育み、発達に良い影響を与えることができると思います。

そして、子どもが集中して絵本を聞くためのポイントは、声の抑揚や声の大きさ、子ども達の絵本を見る姿勢の3つを工夫することです。子どもが安心できる位置で、絵本を楽しませるなら隣に、しっかり集中させたいなら正面になど目的によって見る姿勢を工夫してみましよう。1日の終わりに短い時間でも構わないので、親子で一緒に絵本を読む時間を作ることをお勧めします。

将来、娘が親となったときにも、この絵本を読み聞かせてくれるのでしょうか。また、私自身も時を超えて孫と空想を楽しむことができるのでしょうか。私の大好きな作品が、末永く愛され、次の世代へと受け継がれていくことを切に願っています。